

2016(平成28)年3月期 第2四半期

# 決算説明会

(2015年11月13日)



日本空港ビルデング株式会社  
東証1部(9706)

*Japan Airport Terminal Co.,Ltd.*

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

2016(平成28)年3月期 第2四半期

# 決算説明会

1. 2016年3月期 第2四半期 連結決算総括
2. 2016年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画の進捗
4. 次期中期経営計画に向けて
5. SKYTRAX 国際空港評価



# 1. 2016年3月期 第2四半期連結決算総括

## (1) 連結決算のポイント

### 中国を中心とした訪日外国人客の需要を取り込み増収増益

#### 事業環境

- 東アジアや東南アジアを中心とした訪日外国人客数の増加
- 全国的に国内線、国際線ともにLCC市場の拡大
- ビザ発給要件の緩和、消費税免税制度の拡充、円安傾向の継続

#### 旅客数 (対前年同期比)

- 羽田国内線は、北陸新幹線、広島空港の運用制限の影響により前年同期比で若干減少（0.5%）
- 羽田国際線は、訪日外国人客数の増加から前年同期比で11%の増加
- 成田は、羽田国際線の発着枠拡大による影響は一巡し、訪日外国人客数の増加から前年同期比で6%増加
- 関空は、LCCの増便や訪日外国人の増加から、前年同期比で28%の増加

#### ○ 上期旅客数実績（対前年同期比）

区分	上期旅客数		
	本年 (万人)	前年 (万人)	増減率 (%)
羽田国内	3,134	3,151	△ 0.5
羽田国際	629	564	11.4
羽田計	3,763	3,716	1.3
成田国際	1,576	1,486	6.0
関空国際	838	654	28.1

当初予測	
増減率 (%)	差異 (P)
0.5	△ 1.0
5.8	5.6
1.3	-
3.5	2.5
8.7	19.4

訪日外国人増減率（4～9月）	
国・地域	人数（万人） 増減率（前年比）
中国	291 122.4%
香港	79 70.7%
ベトナム	10 50.7%
韓国	191 44.9%
フィリピン	13 33.2%
その他	451 30.7%
計	1,035 50.9%

## (2) 連結業績

### 訪日外国人客数の増加を取込み増収増益

#### 主な増減要因

#### ○前期実績との差異

- 訪日外国人の増加を取込み、国際線における商品売上および卸売上の増加。
- 羽田国際線旅客ターミナル拡張部の供用開始に伴う業務受託収入の増加。
- 機内食の新規顧客獲得等による飲食売上の増加

#### ○当初予想との差異

- 購買力の高い外国人比率が高まったことによる免税店売上の増加。
- TIATなど持分法適用会社の業績上振れに伴う投資利益の増加

#### ○ 上期連結業績

(単位：億円)

区 分	上期実績	前期実績	増減額	増減率 (%)	当初予想 *1	差異
売 上 高	1,000	823	177	21.6	918	82
(施設管理運営業)	( 250)	( 240)	10	4.3	( 248)	( 2)
(物品販売業)	( 664)	( 504)	160	31.8	( 588)	( 76)
(飲食業)	( 85)	( 78)	6	8.6	( 82)	( 3)
営業利益	65	50	15	30.6	52	13
経常利益	77	61	15	24.8	59	17
四半期純利益	52	39	13	33.9	39	13

\*1 2015年5月に発表した業績予想

注) 億円未満は切捨処理しております。

## 2. 2016年3月期 連結業績予想

### (1) 通期連結業績予想のポイント

中国経済の減速による影響は懸念されるものの  
羽田・中国便の増便、観光立国推進施策により下期の事業環境は順調に推移

#### 事業環境

- ▶ 羽田中国便の増便、観光立国の推進施策等により、航空旅客数は順調に増加
- ▶ 予想を上回る訪日外国人の増加と免税制度の拡充

#### 旅客数 (対前年同期比)

- ▶ 羽田国内線は北陸新幹線等の影響を見込み前年を0.3%下回る予測
- ▶ 羽田国際線は中国便の増便、訪日外国人旅客数の増加を見込み前年を17.5%上回ると予測
- ▶ 成田は訪日外国人旅客数の増加を見込み、前年を6.1%上回ると予測
- ▶ 関空は上期に引き続き、LCCの増便と訪日外国人旅客数の増加を見込み、前年を22%上回ると予測

#### ○ 通期旅客数予測 (対前年同期比)

区分	上期 (%)	下期 (%)	通期 (%)	通期当初予測 (%)	差異 (P)	修正予測 (万人)
羽田国内	△ 0.5	0.0	(0.0)	△ 0.3	△ 0.6	6,247
羽田国際	11.4	23.3	(5.3)	17.5	11.9	1,359
羽田計	1.3	3.7	(0.9)	2.5	1.4	7,607
成田国際	6.0	6.1	(3.1)	6.1	2.8	3,107
関空国際	28.1	16.2	(1.6)	22.0	17.0	1,649

※ ( ) 内は下期当初予測

## (2) 通期連結業績予想

訪日外国人の増加を取込むことに加え、国際化に対応した設備投資の実行

### 主な増減要因

- 前期実績との差異
  - 訪日外国人の増加を取込み、国際線における商品売上および卸売上の増加
  - 市中免税売店（Japan Duty Free GINZA）の開業による売上増
  - 市中免税店新設工事およびターミナルリニューアル等に伴う費用増
- 当初予想との差異
  - 下期は、売上高は免税事業の好調により当初予想を上回るものの、利益は設備投資の実施等による費用増があり当初予想に比べ若干の増加となる
  - 通期においては、上期の増益分もあり売上高、利益ともに当初予想を上回る

### ○ 通期業績予想

（単位：億円）

区 分	上期			下期			通期			前期実績 (14/3期)	増減
	実績	当初予想	増減	修正予想	当初予想	増減	修正予想 (※2)	当初予想	増減		
売上高	1,000 (823)	918	82	1,094 (911)	983	110	2,094 (1,735)	1,900	194	1,735	358
営業利益	65 (50)	52	13	52 (48)	48	4	117 (98)	100	17	98	18
経常利益	77 (61)	59	17	55 (56)	53	1	132 (118)	113	19	118	13
当期純利益	52 (39)	39	13	36 (27)	36	-	89 (66)	76	13	66	22

※1（ ）内は前期実績

年間配当金（円）	15.0	12.0	15.0	12.0	30.0	24.0	21.0
----------	------	------	------	------	------	------	------

※2 修正予想は2015年10月に発表した業績予想

設備投資額	104	109
減価償却費	113	119
EBITDA	240	219

注）億円未満は切捨処理しております。



### (3) セグメント別業績予想(売上高)

(単位：億円)

区 分	16/3期					前期実績 (15/3期)	増減	増減率 (%)	前期実績 ※1 構成比 (%)
	修正予想	当初予想	増減	増減率 (%)	修正予想 ※1 構成比 (%)				
施設管理運営業	514	508	6	1.2	24.5	490	23	4.8	28.2
家賃収入	128	128	-	-	( 25.1 )	128	△ 1	△ 0.7	( 26.3 )
施設利用料収入	178	179	△ 2	△ 1.1	( 34.6 )	179	△ 1	△ 0.7	( 36.5 )
その他の収入 ※2	208	200	8	4.0	( 40.3 )	182	25	14.1	( 37.2 )
物品販売業	1,409	1,230	179	14.6	67.3	1,087	321	29.6	62.7
国内線売店売上	335	336	△ 1	△ 0.3	( 23.8 )	331	3	1.0	( 30.5 )
国際線売店売上	417	356	61	17.1	( 29.6 )	280	136	48.5	( 25.8 )
その他の収入 ※2	657	538	119	22.1	( 46.6 )	475	181	38.3	( 43.7 )
飲食業	171	162	9	5.6	8.2	157	13	8.8	9.1
飲食店舗売上	93	90	2	2.2	( 54.1 )	92	0	1.0	( 58.6 )
機内食売上	55	50	4	7.8	( 32.3 )	45	9	21.9	( 28.7 )
その他の収入 ※2	23	20	3	15.0	( 13.6 )	20	2	15.0	( 12.7 )

※1 ( )内は各セグメント内での構成比(セグメント内売上高を除く)

※2 各セグメントの“その他の収入”の主な項目

施設管理運営業：施設維持管理業務受託収入、ホテル事業収入、広告・ラウンジ収入、駐車場収入等

物品販売業：商品卸売収入(他社免税店)等

飲食業：TIAT飲食店業務受託収入、ケータリング収入等

注) 億円未満は切捨処理しております。

### 3. 中期経営計画の進捗

#### 今期の中期経営計画の4つの重点課題の進捗

##### A 羽田国際化への対応（内際一体化の強化）

（従来からの主な取り組み）

- ・ファーストキャビンの拡張
- ・国際線旅客ターミナル業務受託の拡充
- ・内際乗継施設の整備
- ・日本初出店のブランドブティック（免税店）の誘致
- ・ロイヤルパークホテルの開業

（今期の取り組み）

- ・ユニバーサルデザイン（PBBステップレス、旅客誘導システム等）
- ・案内サインの多言語化の実施
- ・フライト表示機更新、ラウンジリニューアル

##### B 新しい空港運営の未来の構築

（従来からの主な取り組み）

- ・海外インフラプロジェクトへの入札、調査
- ・旅客取扱施設利用料の便益と費用負担の明確化
- ・イセタン羽田ストアのメンズ2号店、レディース店のオープン

（今期の取り組み）

- ・空港型市中免税店Japan Duty Free GINZA店 オープン
- ・空港経営改革
- ・海外事業調査
- ・次世代型ロボットの導入

##### C 当社事業収益性の改善

（従来からの主な取り組み）

- ・PBブランド拡大による原価率の低減
- ・訪日旅行客数の増加にあわせた施策の展開
- ・機内食事業の強化を目的に、LSG社と資本業務提携
- ・事業評価による収支改善

（今期の取り組み）

- ・物流事業の再構築に向けた検討

##### D 人材・組織力の強化

（従来からの主な取り組み）

- ・今後の環境変化に応じた人材の確保と育成

# ◇ 中期経営計画の進捗（参考）



ロイヤルパークホテル ザ 羽田  
(2014.9.30オープン)



Japan Duty Free GINZA  
(三越銀座店 8階に2015年度内オープン予定)



国際線旅客ターミナル拡張に伴う新規免税店舗オープン



機内食事業における新規顧客獲得

## 4. 次期中期経営計画に向けて

この先10年、20年と長期的な視点で新たな成長への挑戦  
～旅客ターミナルビルの“あるべき姿”と新たな収益機会の創造～

### 事業環境

- 就航都市数、便数の増加、拠点空港の国際化進展
- 予想を上回る訪日外国人の増加と免税制度の拡充
- 訪日外国人の旅行支出は増加
- 首都圏空港の発着枠拡大、空港アクセスの改善
- 空港民営化の進展、海外空港運営の推進

### 事業リスク

- 人口減少、少子高齢化
  - 急激な為替変動
  - 中国経済の減速など不透明な市場環境の継続
- ↳ 訪日外国人需要への依存
- 新幹線など地上交通の進化
  - 競合他社の市場参入

東京オリンピック・パラリンピック、国際競争力の強化、観光立国の推進、地方の活性化  
首都圏空港の機能強化は必須

2015

本年をスタートの年として

- 収益の着実な拡大とハード・ソフトサービスレベル維持向上
- 東京オリンピック・パラリンピックへの対応
- 羽田空港跡地開発への参画
- 首都圏空港の更なる機能強化

2020以降の持続的成長に向けて

羽田空港の“あるべき姿”の追求

- 経済活力の起点として
  - ショウケース(技術、産業、文化)
- 地域活性化の起点として
  - 際内ハブ(機能・情報)
- 5スターエアポートとして
  - 卓越したサービスの追求
  - 羽田ブランドの可視化

収益機会の創造

- 外国人の訪日意欲喚起
  - 海外空港との連携
- 国内事業の活性化
  - アウトバウンド(留学・観光)促進
  - 地方連携、人流促進
  - 国内観光促進
- 新たな事業の柱
  - ノウハウ(知的資産)の活用

持続的成長

## 5. SKYTRAX 国際空港評価



### SKYTRAX社実施 Global Airport Rankingで 2年連続 最高評価の 5-Star Airport 獲得



2015年10月13日 羽田空港における受賞式の様子

羽田空港旅客ターミナルは、「Global Airport Ranking」において、2年連続世界最高水準である「5-Star Airport」を獲得しました。昨年は、特にアクセス面やターミナルの使いやすさなどで高い評価をいただきましたが、本年はこれまでの高い評価項目に加え、国際線国内線乗り継ぎ施設の拡充、ホームページの機能・コンテンツの充実、物販店舗や飲食店舗におけるサービス面など、さまざまな項目で高い評価をいただきました。

「Global Airport Ranking 5-Star Airport」

空港	国
羽田空港旅客ターミナル（第1・第2・国際線）	日本
香港国際空港	中国
仁川国際空港	韓国
チャンギ国際空港	シンガポール
ミュンヘン国際空港	ドイツ

SKYTRAX社ホームページより抜粋

### ●SKYTRAX社実施 国際空港評価の2部門でも世界第1位

国内線空港の総合評価である「World's Best Domestic Airport」部門において、羽田空港(国内線第1・第2旅客ターミナル)が、3年連続(2013~2015年)世界第1位となりました。また、「World's Best Airport Security Processing」部門においても、出発保安検査の対応が優れていると評価され、羽田空港(国内線第1・第2旅客ターミナル、国際線旅客ターミナル)が世界第1位となりました。



# 参考（国際線からの就航都市）

国際線26都市29路線  
約100便(出発)/日



- 06 : 00 ~ 23 : 00
- 23 : 00 ~ 06 : 00
- 昼間時間帯及び深夜早朝時間帯路線

都市名	コード	出発便数/日	
中国	北京	PEK	8
	香港	HKG	5
			3
	上海(虹橋)	SHA	4
	上海(浦東)	PVG	4
	広州	CAN	3
天津	TSN	4	
韓国	金浦	GMP	1
	仁川	INC	12
台湾	台北(松山)	TSA	2
	台北(桃園)	TPE	8
オーストラリア	シドニー	SYD	1
東南アジア			
ベトナム	ハノイ	HAN	2
	ホーチミン	SGN	1
シンガポール	シンガポール	SIN	4
			3
フィリピン	マニラ	MNL	2
			1
インドネシア	ジャカルタ	OGK	2
タイ	バンコク	BKK	3
			3
マレーシア	クアラルンプール	KUL	1
欧州			
フランス	パリ	CDG	4
イギリス	ロンドン	LHR	3
ドイツ	フランクフルト	FRA	2
			1
	ミュンヘン	MUC	2
北米			
カナダ	バンクーバー	YVR	1
	トロント	YYZ	1
アメリカ	ホノルル	HNL	1
			2
	サンフランシスコ	SFO	2
	ロサンゼルス	LAX	2
中東			
UAE	ドバイ	DXB	1
カタール	ドバイ	DOX	1
国際線出発便合計			101

## 将来の見通しに関する記述についてのご注意

本資料に掲載されている、弊社の計画、目標、方針、戦略、判断、財務的予測、将来の数値・金額などのうち、歴史的事実でないものは、弊社に関わる将来の見通しに関する記述であり、弊社の経営陣が現在入手可能な情報に基づく予測、想定、認識、評価、判断、前提（仮定）等を基礎としています。これらの実現についてはさまざまな要素の潜在的リスクや不確実性を含んでいます。

なお、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

## お問い合わせ先

日本空港ビルデング株式会社 経営企画本部 広報・IR課



TEL：03（5757）8030

FAX：03（5757）8099

E-MAIL：ir@jat-co.com

[ 2016(平成28)年3月期 第2四半期 ]

# 補 足 資 料

1. 2016年3月期 第2四半期 連結決算の詳細
2. 2016年3月期 連結業績予想の詳細
3. その他



日本空港ビルデング株式会社  
東証1部 (9706)

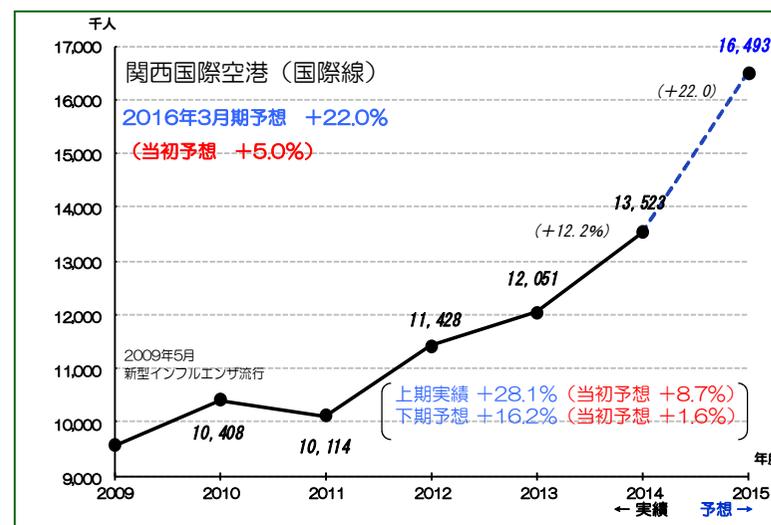
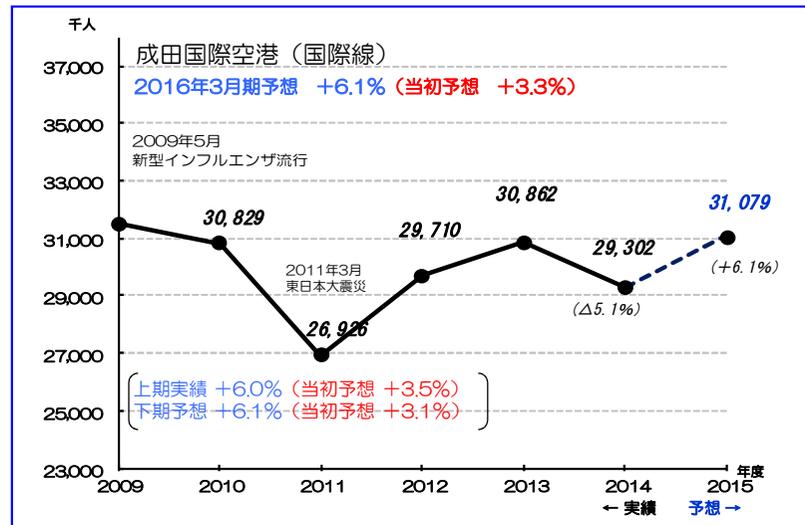
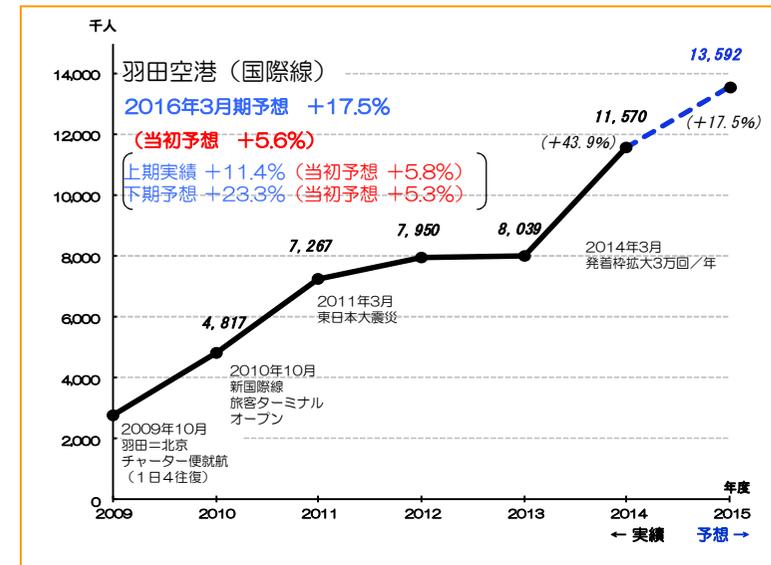
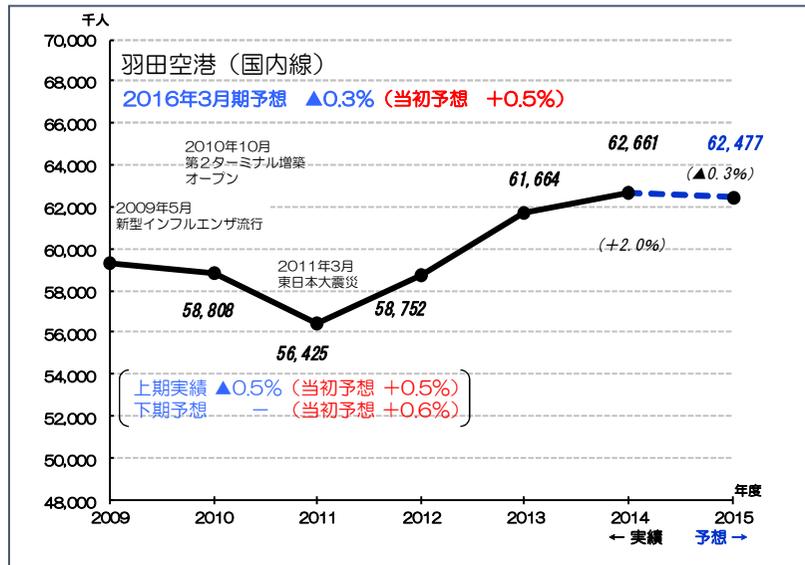
*Japan Airport Terminal Co.,Ltd.*

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



# 1. 2016年3月期 第2四半期 連結決算の詳細

## (1) 航空旅客数の推移 (羽田・成田・関西)



※旅客数：実績 国土交通省、成田国際空港株式会社及び関西国際空港株式会社公表値  
 予想 当社作成

## (2) 2016年3月期 第2四半期 連結業績

区 分	2015.9期 (実績)		2014.9期 (実績)		増減額		増減率		当初予想 (2015.5)		差異
	百万円	比率	百万円	比率	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
売上高	100,080	100.0	82,314	100.0	17,766	21.6			91,800	100.0	8,280
施設管理運営業	25,027	25.0	24,001	29.1	1,026	4.3			24,800	27.0	227
物品販売業	66,498	66.4	50,436	61.3	16,061	31.8			58,800	64.1	7,698
飲食業	8,554	8.6	7,876	9.6	678	8.6			8,200	8.9	354
売上原価	54,469	54.4	41,893	50.9	12,576	30.0			48,300	52.6	6,169
商品売上原価	49,415	49.4	37,271	45.3	12,144	32.6			43,400	47.3	6,015
(商品売上原価率)	(74.3%)		(73.9%)		(0.4P)				(73.8%)		(0.5P)
飲食売上原価	5,053	5.0	4,621	5.6	431	9.3			4,900	5.3	153
(飲食売上原価率)	(59.1%)		(58.7%)		(0.4P)				(59.8%)		(Δ 0.7P)
売上総利益	45,611	45.6	40,421	49.1	5,190	12.8			43,500	47.4	2,111
販売費及び一般管理費	39,033	39.0	35,386	43.0	3,647	10.3			38,300	41.7	733
営業利益	6,578	6.6	5,035	6.1	1,542	30.6			5,200	5.7	1,378
営業外損益	1,151	1.1	1,158	1.4	△ 6	-			700	0.7	451
経常利益	7,729	7.7	6,193	7.5	1,536	24.8			5,900	6.4	1,829
特別損益	△ 4	-	△ 22	-	18	-			△ 200	-	195
当期純利益	5,277	5.3	3,940	4.8	1,336	33.9			3,900	4.2	1,377

※ 商品売上原価率：商品売上原価／物品販売業売上高  
飲食売上原価率：飲食売上原価／飲食業売上高

### (3) セグメント別

#### ① 施設管理運営業

区 分	2015.9期 (実績)		2014.9期 (実績)		増減額		増減率		当初予想 (2015.5)		差異
	百万円	比率	百万円	比率	百万円	比率	百万円	比率	百万円	比率	
外部顧客に対する売上高											
家賃収入	6,441	24.8	6,457	25.8	△ 15	△ 0.2	6,400	24.9	41		
施設利用料収入	8,899	34.3	8,942	35.7	△ 43	△ 0.5	9,000	35.0	△ 100		
その他の収入	9,686	37.3	8,601	34.4	1,084	12.6	9,400	36.6	286		
計	25,027	96.4	24,001	95.9	1,026	4.3	24,800	96.5	227		
セグメント間の内部売上高	934	3.6	1,030	4.1	△ 95	△ 9.3	900	3.5	34		
合計	25,961	100.0	25,031	100.0	930	3.7	25,700	100.0	261		
営業費用	22,680	87.4	21,782	87.0	898	4.1	22,400	87.2	280		
営業利益	3,280	12.6	3,249	13.0	31	1.0	3,300	12.8	△ 19		
(営業利益率)	(12.6%)		(13.0%)		(△ 0.4P)		(12.8%)		(△ 0.2P)		

・その他の収入 : TIAT業務受託収入の増加  
 ホテル収入の増加  
 請負工事収入の減少

＋ 8億円  
 ＋ 7億円  
 ▲ 5億円

### (3) セグメント別

#### ② 物品販売業

区 分	2015.9期 (実績)		2014.9期 (実績)		増減額	増減率	当初予想 (2015.5)		差異
	百万円	比率	百万円	比率			百万円	比率	
外部顧客に対する売上高	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円
国内線売店	16,745	25.0	16,510	32.5	234	1.4	16,900	28.6	△ 154
国際線売店	18,222	27.3	12,706	25.0	5,516	43.4	15,600	26.4	2,622
その他の売上	31,530	47.2	21,220	41.8	10,310	48.6	26,300	44.5	5,230
計	66,498	99.5	50,436	99.3	16,061	31.8	58,800	99.5	7,698
セグメント間の内部売上高	347	0.5	342	0.7	4	1.3	300	0.5	47
合計	66,846	100.0	50,779	100.0	16,066	31.6	59,100	100.0	7,746
営業費用	61,322	91.7	46,861	92.3	14,460	30.9	54,600	92.4	6,722
営業利益	5,523	8.3	3,918	7.7	1,605	41.0	4,500	7.6	1,023
(営業利益率)	( 8.3%)		( 7.7%)		( 0.6P)		( 7.6%)		( 0.7P)

- ・国内線売店 : 国内線新規店舗展開に伴う売上増 + 2億円
- ・国際線売店 : 羽田国際線直営店舗の売上増 + 3億円
- 成田空港の直営店舗の売上増 + 25億円
- 関西空港のブティック店舗の売上増 + 27億円
- ・その他の売上 : 羽田国際線や地方空港等への卸売増 + 77億円
- 成田空港への卸売増 + 18億円
- 中部空港への卸売増 + 4億円

### (3) セグメント別

#### ③ 飲食業

区 分	2015.9期 (実績)		2014.9期 (実績)		増減額	増減率	当初予想 (2015.5)		差異
	百万円	比率	百万円	比率			百万円	比率	
外部顧客に対する売上高									
飲食店舗売上	4,812	48.9	4,632	51.1	179	3.9	4,600	47.9	212
機内食売上	2,668	27.1	2,274	25.0	393	17.3	2,600	27.1	68
その他の売上	1,074	11.0	969	10.7	105	10.9	1,000	10.4	74
計	8,554	87.0	7,876	86.8	678	8.6	8,200	85.4	354
セグメント間の内部売上高	1,282	13.0	1,193	13.2	88	7.4	1,400	14.6	△ 117
合計	9,837	100.0	9,069	100.0	767	8.5	9,600	100.0	237
営業費用	9,537	97.0	9,014	99.4	523	5.8	9,500	99.0	37
営業利益	299	3.0	55	0.6	243	436.9	100	1.0	199
(営業利益率)	( 3.0%)		( 0.6%)		( 2.4P)		( 1.0%)		( 2.0P)

- 飲食店舗売上 : 新規店舗展開に伴う売上増 + 1 億円
- 機内食売上 : 新規顧客の獲得に伴う売上増 + 3 億円
- その他の売上 : 業務受託料収入の増加 + 1 億円

## (4) 販売費および一般管理費の内訳

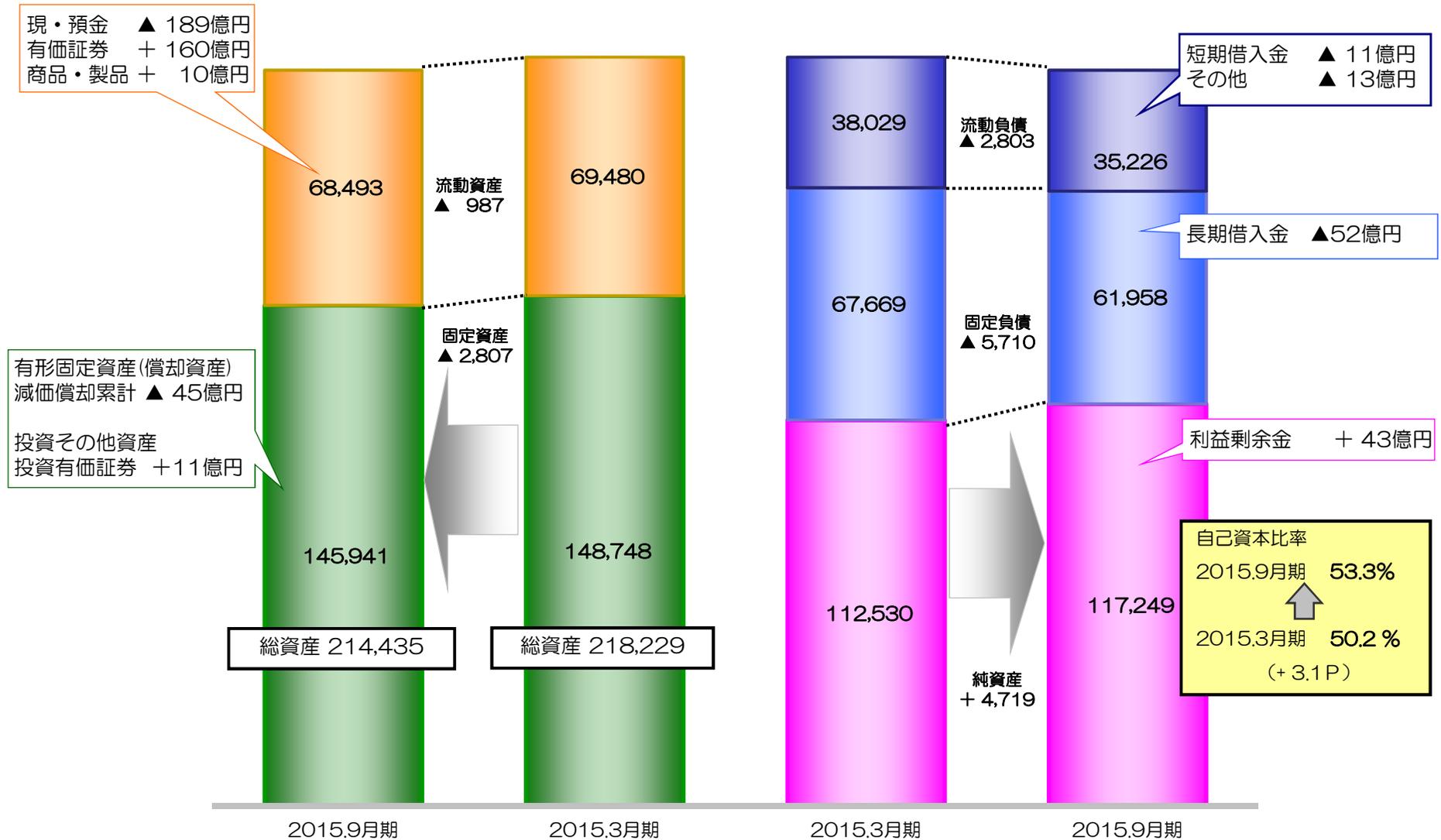
区 分	2015.9期 (実績)		2014.9期 (実績)		増減額	増減率
	百万円	比率 %	百万円	比率 %		
売上高	100,080	100.0	82,314	100.0	17,766	21.6
販売費及び一般管理費	39,033	39.0	35,386	43.0	3,647	10.3
従業員給与	3,984	4.0	3,709	4.5	275	7.4
賞与引当金繰入額	1,274	1.3	1,072	1.3	202	18.8
役員賞与引当金繰入額	112	0.1	96	0.1	16	16.8
退職給付費用	465	0.4	496	0.6	△ 31	△ 6.3
賃借料	6,100	6.1	4,890	6.0	1,209	24.7
業務委託費	9,706	9.7	8,382	10.2	1,323	15.8
減価償却費	5,525	5.5	5,847	7.1	△ 321	△ 5.5
その他の経費	11,864	11.9	10,890	13.2	973	8.9

## (5) 営業外損益と特別損益

区 分	2015.9期 (実績)		2014.9期 (実績)		増減額	増減率
	百万円	比率 %	百万円	比率 %		
売上高	100,080	100.0	82,314	100.0	17,766	21.6
営業利益	6,578	6.6	5,035	6.1	1,542	30.6
営業外収益	1,581	1.6	1,620	2.0	△ 38	△ 2.4
受取利息・配当金	511	0.5	372	0.4	139	37.3
持分法による投資利益	798	0.8	705	0.9	92	13.2
その他	271	0.3	542	0.7	△ 270	△ 49.9
営業外費用	429	0.4	462	0.6	△ 32	△ 7.0
支払利息	293	0.3	400	0.5	△ 106	△ 26.6
その他	135	0.1	61	0.1	74	120.6
経常利益	7,729	7.7	6,193	7.5	1,536	24.8
特別利益	-	-	-	-	-	-
特別損失	4	0.0	22	0.0	△ 18	△ 81.7
法人税等	2,448	2.4	2,229	2.7	218	9.8
当期純利益	5,277	5.3	3,940	4.8	1,336	33.9

# (6) 連結貸借対照表

(単位：百万円)



注：百万円未満は切捨処理しております。

## (7) 連結キャッシュ・フロー

区 分	2015.9期 (実績)	2014.9期 (実績)	増減額
	百万円	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,288	7,191	1,096
税金等調整前当期純利益	7,725	6,170	1,555
減価償却費	5,570	5,887	△ 316
その他の流動資産	△ 284	△ 1,020	736
その他の流動負債	648	1,937	△ 1,288
その他の固定負債	△ 105	△ 72	△ 33
その他	△ 2,100	△ 3,838	1,738
法人税等の支払額	△ 3,166	△ 1,872	△ 1,294
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,479	△ 3,223	△ 256
有形固定資産の取得	△ 3,312	△ 2,875	△ 436
無形固定資産の取得	△ 175	△ 193	18
その他	8	△ 153	162
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,740	△ 6,833	△ 907
長期借入金	-	-	-
長期借入金の返済	△ 6,386	△ 5,886	△ 500
配当金の支払	△ 974	△ 568	△ 406
その他	△ 380	△ 378	△ 1
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 1	1
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 2,932	△ 2,866	△ 66
現金及び現金同等物の期首残高	46,897	15,133	31,763
現金及び現金同等物の期末残高	43,964	12,267	31,697

注：百万円未満は切捨処理しております。

## (8) 設備投資と減価償却費

区 分	2011.9期 (実績)	2012.9期 (実績)	2013.9期 (実績)	2014.9期 (実績)	2015.9期 (実績)
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
設備投資額	5,183	4,270	1,845	1,489	1,591
減価償却費	6,685	6,341	6,258	5,847	5,525

## • 主な設備投資額

2015.9月期(実績)

第1・第2ビルPBB屋外広告看板設置 3億円

## • 主な減価償却費の内訳

	2011.9期 (実績)	2012.9期 (実績)	2013.9期 (実績)	2014.9期 (実績)	2015.9期 (実績)
	億円	億円	億円	億円	億円
第1ビル	20	20	19	19	19
第2ビル	30	26	26	24	22
国際線ビル	-	-	-	-	-
P4駐車場	3	2	2	2	2

注：百万円未満は切捨処理しております。

## 【参考】外国人旅客の国籍・地域別購買動向 ①

### ① 空港別 出国外国人旅客数（月平均）

	日本全体		羽田		成田		関西		その他	
	旅客数（人）	構成比（%）	旅客数（人）	構成比（%）	旅客数（人）	構成比（%）	旅客数（人）	構成比（%）	旅客数（人）	構成比（%）
2014年度	1,267,002	100	164,825	13	430,551	34	286,772	23	384,854	30
2015年度上期	1,728,848	100	209,418	12	553,155	32	455,700	26	510,575	30

（3空港で、日本全体の出国外国人旅客の7割を占める）

### ② 空港別 国籍・地域別 出国外国人旅客数（月平均）

○ 2015年度 国籍・地域別出国外国人旅客数順位と増減

《羽田》

国籍	旅客数（人）	構成比（%）	増減率（%）
①中国（香港含）	44,573	20.0	53.2
②韓国	37,739	18.0	6.6
③台湾	25,700	12.3	10.6
④米国	17,649	8.4	44.5
外国人	209,418	40.3	27.1
日本人	310,498	59.7	▲ 1.1
合計	519,916	100.0	8.6

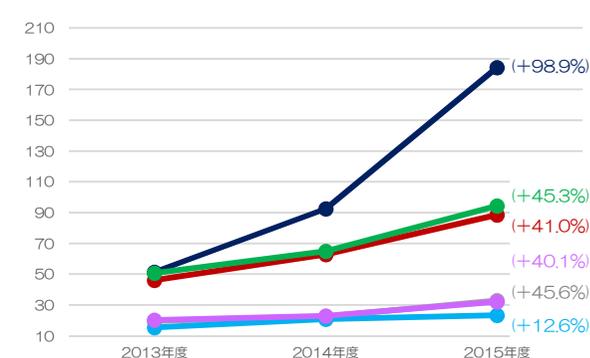
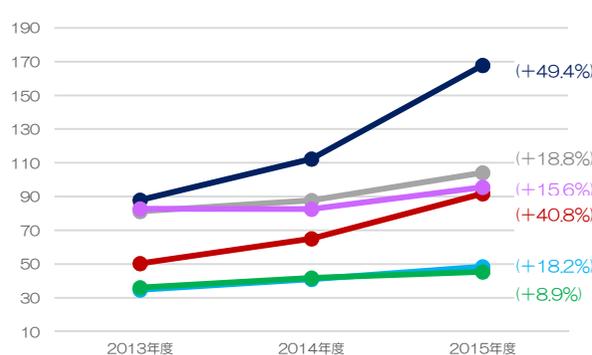
《成田》

国籍	旅客数（人）	構成比（%）	増減率（%）
①中国（香港含）	167,785	30.0	49.4
②台湾	91,699	20.0	40.8
③米国	59,309	10.0	19.1
④韓国	45,461	10.0	8.9
外国人	553,155	50.8	28.5
日本人	535,270	49.2	▲ 4.5
合計	1,088,425	100.0	9.8

《関空》

国籍	旅客数（人）	構成比（%）	増減率（%）
①中国（香港含）	184,214	40.0	98.9
②韓国	94,368	20.0	45.3
③台湾	88,638	20.0	41.0
④タイ	14,178	0.0	24.2
外国人	455,700	65.4	58.9
日本人	240,808	34.6	▲ 7.9
合計	696,508	100.0	27.0

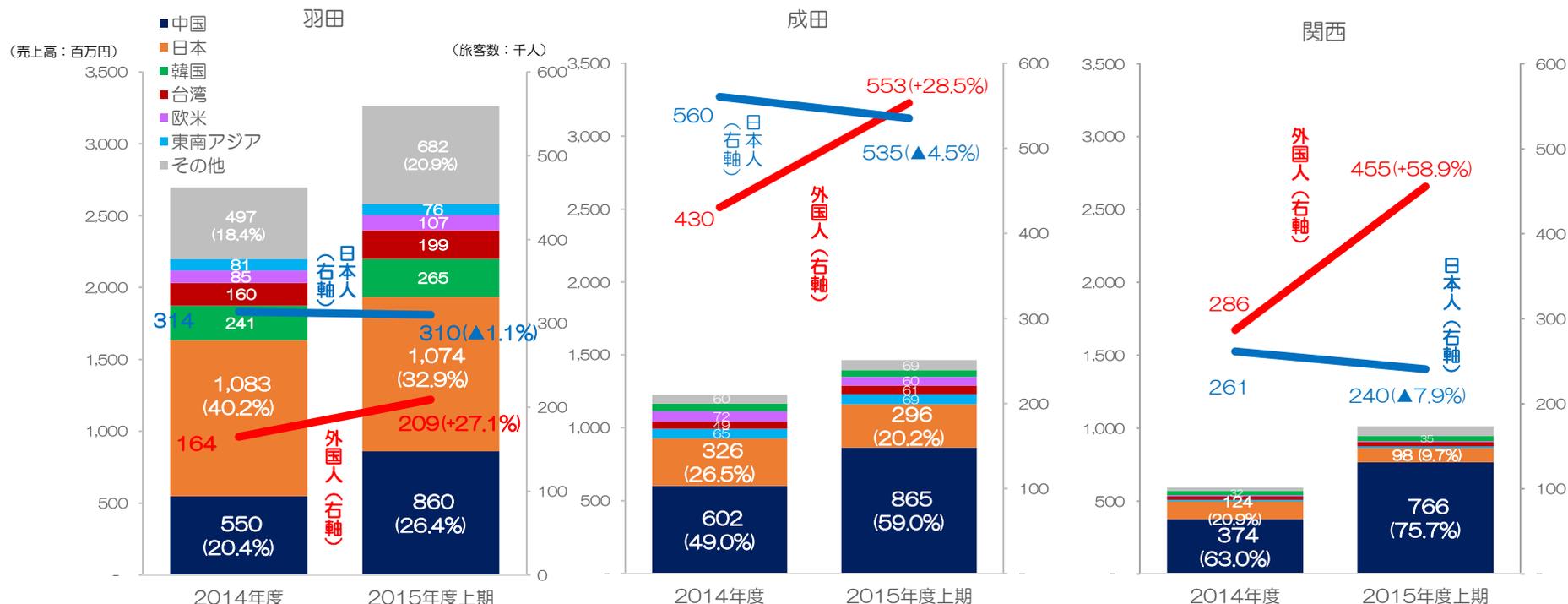
○ 出国外国人旅客数の推移



注）・旅客データは法務省 出入国管理統計より当社集計 ・2015年度は4～8月データを使用・旅客数に通過（乗継）客を含まない

## 【参考】外国人旅客の国籍・地域別購買動向 ②

### ③ 空港別 国籍・地域別 当社免税売店売上高と出国旅客数推移 (月平均)



注)・売上高は全て店舗売上高(課税対象店舗除く) 羽田:免税エリア全店 成田:直営総合店・直営ブティック 関西:直営ブティック ・国籍売上は一部推計含む ・中国は香港を含む  
 ・( )は構成比を示す

### ④ 免税売店の主な増減要因と購買動向

#### 《羽田》

- 外国人旅客の増加に伴い、特に中国人の売上シェアが全体の約25%に拡大
- 外国人旅客の日本製化粧品と高額ジュエリーの売上が好調に推移

#### 《成田》

- 日本人旅客の減少に伴い、日本人の売上シェアが約20%に減少
- 中国人旅客等の店舗誘客策強化により、中国人の売上シェアは約60%まで拡大

#### 《関西》

- 中国人旅客の売上が全体の約75%を占め、特に時計、ジュエリーが好調に推移

## 2. 2016年3月期 連結業績予想の詳細

### (1) 2016年3月期 連結業績予想

区 分	2016.3期 ( 予想 )		2015.3期 ( 実績 )		増減額		増減率	当初予想 (2015.5)		差異
	百万円	比率 %	百万円	比率 %	百万円	%		百万円	比率 %	
売上高	<b>209,400</b>	100.0	173,505	100.0	35,894	20.7	190,000	100.0	19,400	
施設管理運営業	51,400	24.5	49,036	28.2	2,363	4.8	50,800	26.8	600	
物品販売業	140,900	67.3	108,751	62.7	32,148	29.6	123,000	64.7	17,900	
飲食業	17,100	8.2	15,717	9.1	1,382	8.8	16,200	8.5	900	
売上原価	<b>114,000</b>	54.4	89,956	51.8	24,043	26.7	99,700	52.5	14,300	
商品売上原価	103,800	49.6	80,746	46.5	23,053	28.6	90,200	47.5	13,600	
(商品売上原価率)	( 73.7%)		( 74.2%)		( Δ 0.5P)		( 73.3%)		( 0.4P)	
飲食売上原価	10,200	4.8	9,210	5.3	989	10.7	9,500	5.0	700	
(飲食売上原価率)	( 59.6%)		( 58.6%)		( 1.0P)		( 58.6%)		( 1.0P)	
売上総利益	<b>95,400</b>	45.6	83,548	48.2	11,851	14.2	90,300	47.5	5,100	
販売費及び一般管理費	<b>83,700</b>	40.0	73,659	42.5	10,040	13.6	80,300	42.2	3,400	
営業利益	<b>11,700</b>	5.6	9,888	5.7	1,811	18.3	10,000	5.3	1,700	
営業外損益	1,500	0.7	1,960	1.1	△ 460	△ 23.5	1,300	0.6	200	
経常利益	<b>13,200</b>	6.3	11,849	6.8	1,350	11.4	11,300	5.9	1,900	
特別損益	<b>△ 200</b>	△ 0.1	△ 330	△ 0.2	130	-	△ 200	△ 0.1	-	
当期純利益	<b>8,900</b>	4.3	6,648	3.8	2,251	33.9	7,600	4.0	1,300	

## (2) セグメント別

## ① 施設管理運営業

区 分	2016.3期 (予想)		2015.3期 (実績)		増減額		増減率		当初予想 (2015.5)		差異
	百万円	比率	百万円	比率	百万円				百万円	比率	
外部顧客に対する売上高											
家賃収入	12,800	24.0	12,895	25.3	△ 95		△ 0.7		12,800	24.2	-
施設利用料収入	17,800	33.4	17,917	35.1	△ 117		△ 0.7		18,000	34.1	△ 200
その他の収入	20,800	39.0	18,223	35.8	2,576		14.1		20,000	37.9	800
計	51,400	96.4	49,036	96.2	2,363		4.8		50,800	96.2	600
セグメント間の内部売上高	1,900	3.6	1,951	3.8	△ 51		2.6		2,000	3.8	△ 100
合計	53,300	100.0	50,987	100.0	2,312		4.5		52,800	100.0	500
営業費用	48,100	90.2	45,617	89.5	2,482		5.4		47,000	89.0	1,100
営業利益	5,200	9.8	5,369	10.5	△ 169		3.2		5,800	11.0	△ 600
(営業利益率)	(9.8%)		(10.5%)		(△ 0.7P)				(11.0%)		(△ 1.2P)

- ・施設利用料収入 : 国内線旅客数の減少に伴うPSFCの減少
- ・その他の収入 : 業務受託収入(国際線)およびPBB広告料の増加等  
請負工事収入の減少

▲ 1億円  
+33億円  
▲ 6億円

## (2) セグメント別

### ② 物品販売業

区 分	2016.3期 ( 予想 )		2015.3期 ( 実績 )		増減額	増減率	当初予想 (2015.5)		差 異
	百万円	比率	百万円	比率			百万円	比率	
外部顧客に対する売上高	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円
国内線売店	33,500	23.7	33,168	30.3	331	1.0	33,600	27.2	△ 100
国際線売店	41,700	29.4	28,078	25.7	13,621	48.5	35,600	28.8	6,100
その他の売上	65,700	46.4	47,503	43.4	18,196	38.3	53,800	43.5	11,900
計	140,900	99.5	108,751	99.4	32,148	29.6	123,000	99.5	17,900
セグメント間の内部売上高	700	0.5	672	0.6	27	4.0	600	0.5	100
合 計	141,600	100.0	109,424	100.0	32,175	29.4	123,600	100.0	18,000
営業費用	130,600	92.2	100,588	91.9	30,011	29.8	114,800	92.9	15,800
営業利益	11,000	7.8	8,835	8.1	2,164	24.5	8,800	7.1	2,200
(営業利益率)	( 7.8%)		( 8.1%)		(△0.3P)		( 7.1%)		( 0.7P)

- ・国内線売店 : 国内線新規店舗展開に伴う売上増
- ・国際線売店 : 羽田国際線直営店舗の売上増  
成田空港の直営店舗の売上増  
関西空港のブティック店舗の売上増
- ・その他の売上 : 羽田国際線および成田空港における卸売の売上増  
地方空港等への卸売の売上増等

- + 3億円
- + 7億円
- + 41億円
- + 42億円
- + 109億円
- + 67億円

## (2) セグメント別

### ③ 飲食業

区 分	2016.3期 (予想)		2015.3期 (実績)		増減額 百万円	増減率 %	当初予想 (2015.5)		差異 百万円
	百万円	比率 %	百万円	比率 %			百万円	比率 %	
外部顧客に対する売上高									
飲食店舗売上	9,300	46.9	9,204	50.8	95	1.0	9,100	48.4	200
機内食売上	5,500	27.8	4,511	24.9	988	21.9	5,100	27.1	400
その他の売上	2,300	11.6	2,000	11.0	299	15.0	2,000	10.7	300
計	17,100	86.4	15,717	86.7	1,382	8.8	16,200	86.2	900
セグメント間の内部売上高	2,700	13.6	2,415	13.3	284	11.8	2,600	13.8	100
合 計	19,800	100.0	18,132	100.0	1,667	9.2	18,800	100.0	1,000
営業費用	19,300	97.5	17,954	99.0	1,345	7.5	18,500	98.4	800
営業利益	500	2.5	178	1.0	321	180.7	300	1.6	200
(営業利益率)	( 2.5%)		( 1.0%)		( 1.5P)		( 1.6%)		( 0.9P)

- ・機内食売上 : 新規顧客の獲得に伴う売上増
- ・その他の売上 : TIAT飲食店業務受託収入の増加

+10億円  
+ 3億円

注：百万円未満は切捨処理しております。

### 3. その他

#### (1) 設備投資と減価償却費

区 分	2011.3期 (実績)	2012.3期 (実績)	2013.3期 (実績)	2014.3期 (実績)	2015.3期 (実績)	2016.3期 (予想)
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
設備投資額	13,413	8,140	7,215	5,765	4,828	10,485
減価償却費	13,217	13,954	12,865	12,680	11,872	11,331

##### ・主な設備投資額の内訳

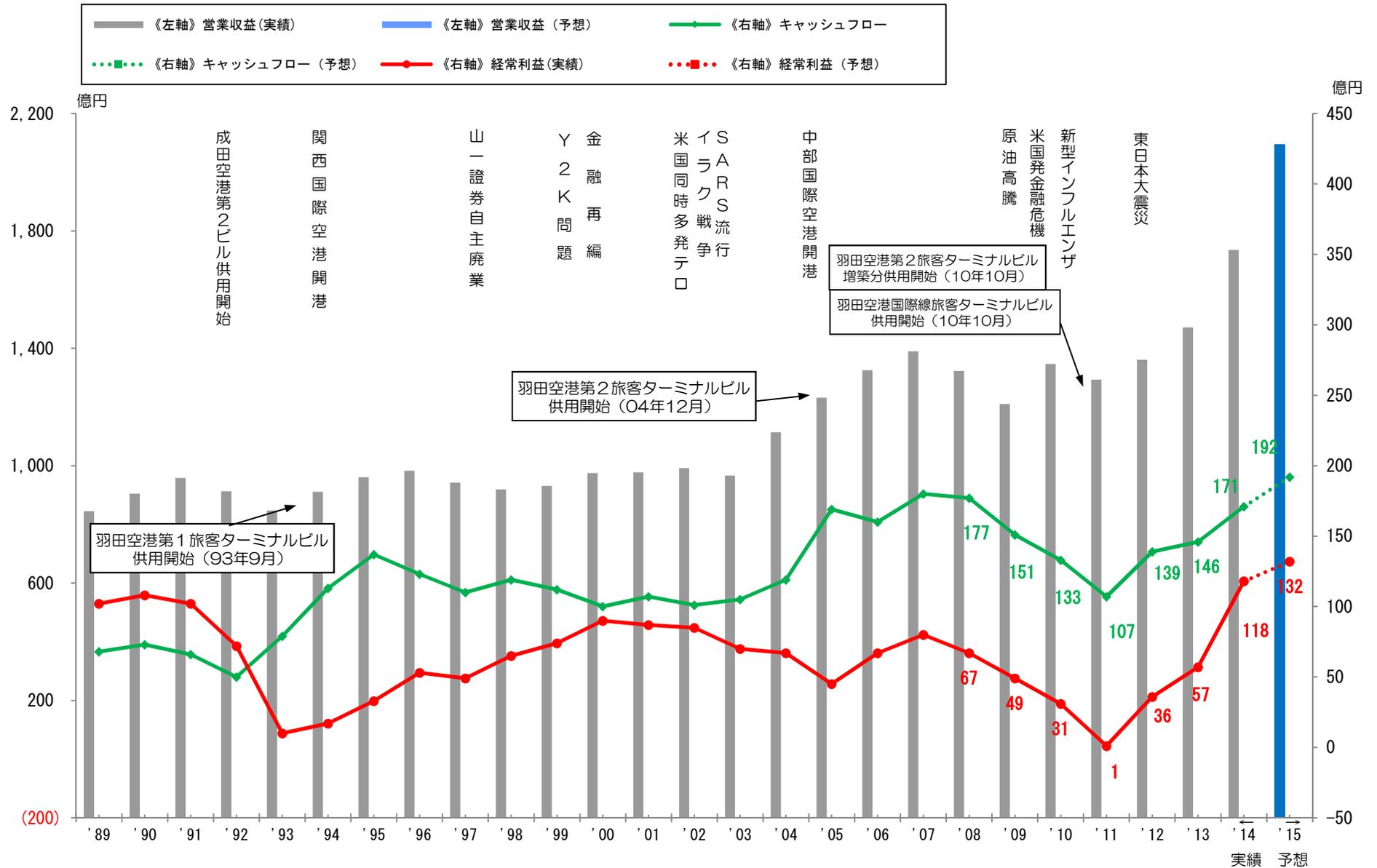
2015.3月期 (実績)		2016.3月期 (予想)	
中央監視システム更新工事	4億円	市中免税店新設工事	27億円
第1ビルPBB更新工事	3億円	第1ビルPBB更新工事	7億円
第1ビルサイン改修工事	3億円	第1・第2ビル中央監視装置更新工事	6億円
他羽田A73号店(レイス)工事	3億円	第1ビルリニューアル工事(BF・1F)	6億円
他羽田A72号店工事	2億円	第1・第2ビルPBB屋外広告看板設置	3億円

##### ・主な減価償却費の内訳

	2011.3期 (実績)	2012.3期 (実績)	2013.3期 (実績)	2014.3期 (実績)	2015.3期 (実績)	2016.3期 (予想)
	億円	億円	億円	億円	億円	億円
第1ビル	41	44	42	40	39	40
第2ビル	56	61	52	54	50	44
国際線ビル	3	-	-	-	-	-
P4駐車場	6	6	5	5	4	4

注：百万円未満は切捨処理しております。

## (2) 営業収益・経常利益・キャッシュフローの推移



(キャッシュフロー = 当期純利益+減価償却費-配当金)

## 将来の見通しに関する記述についてのご注意

本資料に掲載されている、弊社の計画、目標、方針、戦略、判断、財務的予測、将来の数値・金額などのうち、歴史的事実でないものは、弊社に関わる将来の見通しに関する記述であり、弊社の経営陣が現在入手可能な情報に基づく予測、想定、認識、評価、判断、前提（仮定）等を基礎としています。これらの実現についてはさまざまな要素の潜在的リスクや不確実性を含んでいます。

なお、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

## お問い合わせ先

日本空港ビルデング株式会社 経営企画本部 広報・IR課



TEL：03（5757）8030

FAX：03（5757）8099

E-MAIL：ir@jat-co.com

[ 2016(平成28)年3月期第2四半期 ]

# 参 考 資 料

1. 当社の事業概要と特性
2. 東京国際空港再拡張事業への取り組み
3. 国内線・国際線航空旅客数の推移



日本空港ビルデング株式会社  
東証1部(9706)

*Japan Airport Terminal Co.,Ltd.*

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

# 1. 当社の事業概要と特性

## (1) 空港における当社の位置づけ

空 港 名	羽田空港 (東京国際空港)	成田空港 (成田国際空港)	関西空港 (関西国際空港)	中部空港 (中部国際空港)	伊丹空港 (大阪国際空港)
設 置 者	国 (国土交通大臣)	成田国際空港 株式会社	新関西国際空港 株式会社	中部国際空港 株式会社	新関西国際空港 株式会社
管 理 者		成田国際空港 株式会社	新関西国際空港 株式会社	中部国際空港 株式会社	新関西国際空港 株式会社
空 港 施 設 (基本施設) 滑 走 路 誘 導 路 エ プ ロ ン	国 (国土交通大臣)	成田国際空港 株式会社	新関西国際空港 株式会社	中部国際空港 株式会社	新関西国際空港 株式会社
管 制 施 設	国 (国土交通大臣)				
旅客ターミナルビル	国内線：当 社 国際線：東京国際空港ターミナル(株)	成田国際空港 株式会社	新関西国際空港 株式会社	中部国際空港 株式会社	大阪国際空港 ターミナル(株)
株主構成	民間企業・その他 100%	国 100%	国 100%	民間企業・その他 50% 国 40% 地方自治体 10%	新関西国際空港株式会社 100%

(参考) 基本的な旅客ターミナルビル会社の位置づけ

・インフラの担い手

滑走路、誘導路、エプロン：国、地方公共団体、成田・関空・中部の各空港会社が設置・管理

旅客（貨物）ターミナルビル：民間企業、第3セクター、空港会社等が建設・所有、管理運営

整備場：民間企業、航空会社等が建設・所有、管理

当社は、空港法第15条第1項に規定する空港機能施設事業<sup>(※)</sup>を行う者として指定（国土交通大臣）を受ける。

(※) 空港機能施設（各空港においてその機能を確保するために必要な航空旅客若しくは航空貨物の取扱施設又は航空機給油施設をいう。）

を建設し、又は管理する事業

・航空会社との関係 チェックインカウンター、事務室等を賃貸

・物販、飲食およびサービス店舗との関係 旅客ターミナルビル会社が直営店舗を出店する場合や、航空関連会社などのテナントへ店舗、事務室を賃貸。但し、構内営業の届出等が必要

## (2) 当社の沿革

羽田空港は1952(昭和27)年に米国から返還され、わが国の空の玄関として再発足することになりましたが、戦後の財政窮乏のため、国家予算としては誘導路およびエプロンの舗装費用のみが計上されました。このような状況の下、**政府は民間資本によりターミナルを建設することを決定し**(閣議了解事項)、**財界主要企業の協力により** 1953(昭和28)年に**当社が設立され**(資本金 1億5千万円)、1955(昭和30)年5月にターミナルの供用を開始しました。

1953(昭和28)年	7月	資本金1億5千万円をもって民間資本により設立
1955(昭和30)年	5月	ターミナルビル開館、営業開始
1964(昭和39)年	4月	東京オリンピック開催に伴う国内線到着専用ターミナルビル工事竣工
	10月	免税品販売業開始
1978(昭和53)年	5月	成田空港開港に伴い免税店での物品販売、ホテル斡旋等開始
1990(平2)年	2月	東京証券取引所市場第二部に上場
1991(平3)年	9月	東京証券取引所市場第一部に上場
1993(平5)年	9月	羽田空港第1旅客ターミナルビル(ビッグバード)供用開始
1994(平6)年	9月	関西空港開港に伴い免税店運営業務受託、免税品の卸売等開始
1998(平10)年	3月	羽田空港暫定国際線旅客ターミナルビル供用開始
2001(平13)年	2月	羽田空港国際旅客チャーター便就航
2002(平14)年	4月	羽田空港国際定期便運航終了(チャイナライオン、エール・フランス 成田移転)
2003(平15)年	11月	羽田⇄金浦国際旅客チャーター便就航
2004(平16)年	12月	羽田空港第2旅客ターミナルビル供用開始
2005(平17)年	2月	中部空港開港に伴い免税品の卸売開始
2006(平18)年	4月	東京国際空港国際線地区旅客ターミナルビル等整備・運営事業へ参画
	6月	特別目的会社(SPC)「東京国際空港ターミナル株式会社」へ出資
2007(平19)年	2月	羽田空港第2旅客ターミナルビル南ピア供用開始
	9月	羽田⇄上海(虹橋)国際旅客チャーター便就航
2008(平20)年	4月	羽田⇄香港国際旅客チャーター便就航(特定時間帯)
2009(平21)年	4月	空港法により空港機能施設事業者指定
	10月	羽田⇄北京国際旅客チャーター便就航
2010(平22)年	8月	P4本格立体駐車場完成・供用開始(本格運用は10月から)
	10月	羽田空港第2旅客ターミナルビル本館増築部供用開始 新国際線旅客ターミナル(TIAT)供用開始
2011(平23)年	1月	羽双(成都)商貿有限公司(連結子会社)を設立
	11月	羽田空港第1旅客ターミナルビルリニューアル工事竣工
2013(平25)年	4月	羽田空港第2旅客ターミナルビル南ピア増築部供用開始
2014(平26)年	3月	国際線旅客ターミナル拡張部供用開始



開館当時の羽田空港旅客ターミナルビル



羽田空港第1旅客ターミナルビル



羽田空港第2旅客ターミナルビル

### (3) 各空港における当社グループ事業展開

#### 羽田空港（東京国際空港）

##### 第1旅客ターミナル (経営面積 291,500㎡)



1993.9.27 供用開始

- 旅客ターミナルビルの建設、管理運営
- 不動産賃貸
- 物品販売(直営)
- 飲食サービス(直営)
- 旅客サービス
- 機内食製造・販売

##### 第2旅客ターミナル (経営面積 255,600㎡)



2004.12.1 供用開始  
 2007.2.15 南ピア供用開始  
 2010.10.13 本館南側増築部供用開始  
 2013.4.8 南ピア増築部供用開始

##### 国際線旅客ターミナル (東京国際空港ターミナル㈱が建設、管理)



2010.10.21 供用開始

###### 業務受託

- 施設維持管理
- 免税店運営等
- 旅客サービス
- 卸売、物品販売
- 飲食サービス

##### 駐車場



駐車場の管理運営 (合計 4,776台)

- P 1 駐車場 2,351台
- P 4 駐車場 2,425台

#### 成田国際空港



- 物品販売(免税店ほか)
- 卸売(免税品、一般品)、免税店運営業務受託
- 飲食サービス
- 旅客サービス
- 機内食製造・販売

#### 関西国際空港



- 免税店運営業務受託
- 物品販売
- 卸売

#### 中部国際空港



- 卸売

#### 成都国際空港及び市中(中国)



- 物品販売
- 卸売
- 飲食業

## (4) グループ企業 (16社)

## 日本空港ビルディング(株)

## 施設管理運営業 (6社)

- |                           |  |
|---------------------------|--|
| (保守管理)・日本空港テクノ(株)         | 空港ターミナル施設の保守管理業務(点検、工事、清掃など)               |
| ・羽田エアポートセキュリティ(株)         | 空港ターミナル施設内警備および駐車場運営                       |
| ・(株)櫻商会                   | ゴミ処理施設の運営                                  |
| (サービス)・(株)ビッグウイング         | ターミナル内における広告代理業およびイベント企画運営                 |
| ・羽田旅客サービス(株)              | 旅客サービス業務(案内、保険販売、旅行業)                      |
| ・ジャパン・エアポート・グランドハンドリング(株) | 羽田空港内におけるグランドハンドリング業務<br>(旅客、ランプ、ビジネスジェット) |

## 物品販売業 (6社)

- |                                    |                                   |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| ・国際協商(株)                           | 国内空港売店等への卸売業務および物品販売業務            |
| ・(株)日本空港ロジテム                       | 運送業務および通関業務                       |
| ・羽双(成都)商貿有限公司                      | 成都双流国際空港(中国四川省)内における卸売業務および物品販売業務 |
| ・(株)羽田エアポートエンタープライズ                | 羽田空港および成田国際空港における店舗運営業務(食品、雑貨、免税) |
| ・(株)浜 眞                            | 海産物の卸売業務                          |
| ・(株)Japan Duty Free Fa-So-La 三越伊勢丹 | 市中での空港型免税売店(保税売店)を展開              |

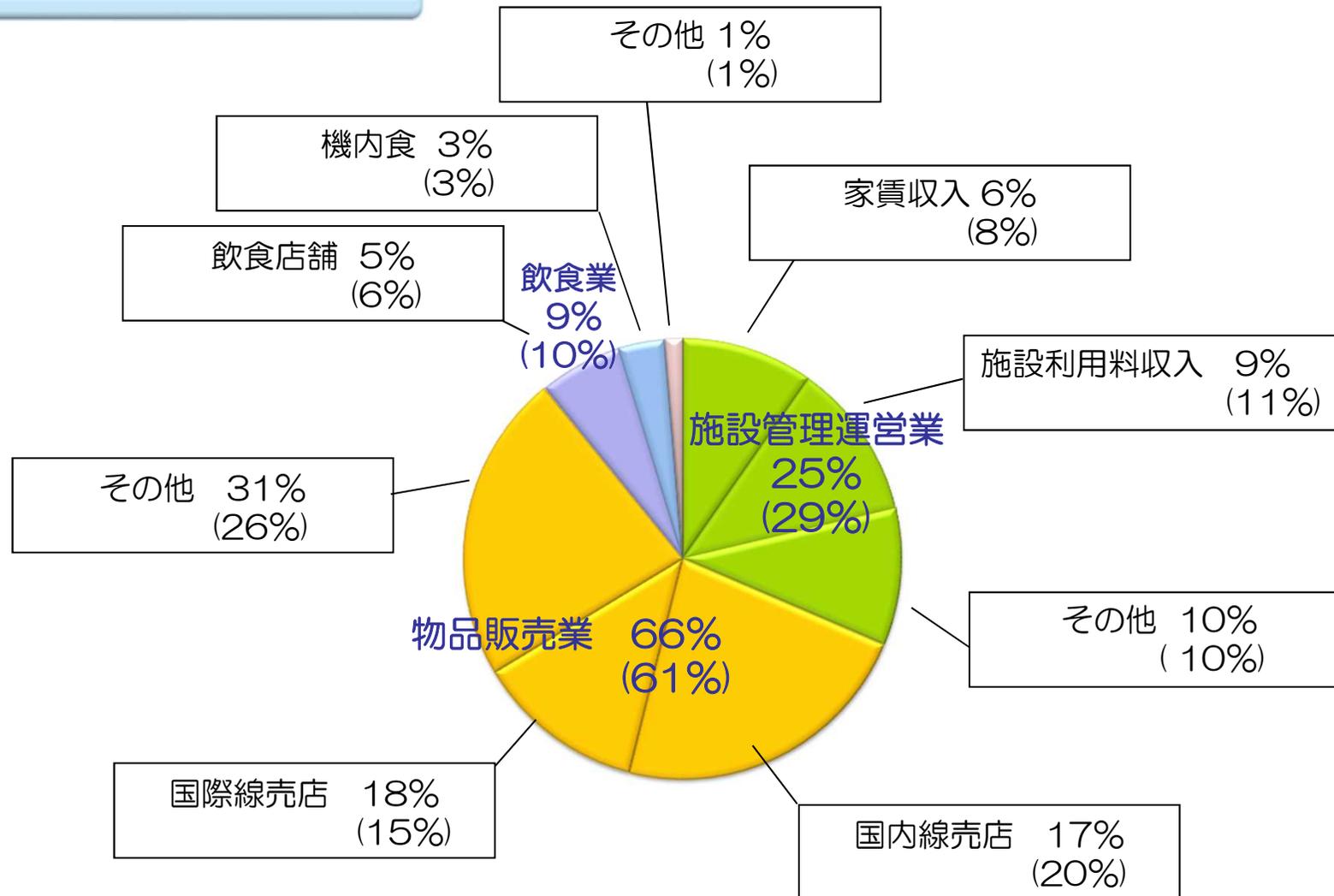
## 飲食業 (4社)

- |                  |   |
|------------------|---|
| ・東京エアポートレストラン(株) | 羽田空港および成田国際空港内における飲食店舗運営<br>羽田空港内におけるエアポートラウンジや会議室の運営 |
| ・コスモ企業(株)        | 羽田空港および成田国際空港内における外国航空会社への機内食の製造業務                    |
| ・(株)シー・ティ・ティ     | 航空機用品の洗浄業務  |
| ・会館開発(株)         | 飲食店舗運営, ホール, 会議室の運営                                   |

※平成23年1月、成都双流国際空港(中国四川省)内における物販事業及び卸売事業を目的とする子会社として、羽双(成都)商貿有限公司(資本金85百万円 出資比率100.0%)を設立いたしました。  
 ※平成23年7月、株式会社ビッグウイングは、連結子会社であった株式会社ヒロインターナショナルを吸収合併いたしました。

(5) 当社グループの事業構造(連結・セグメント別/2015年9月期実績)

売上高の構成比



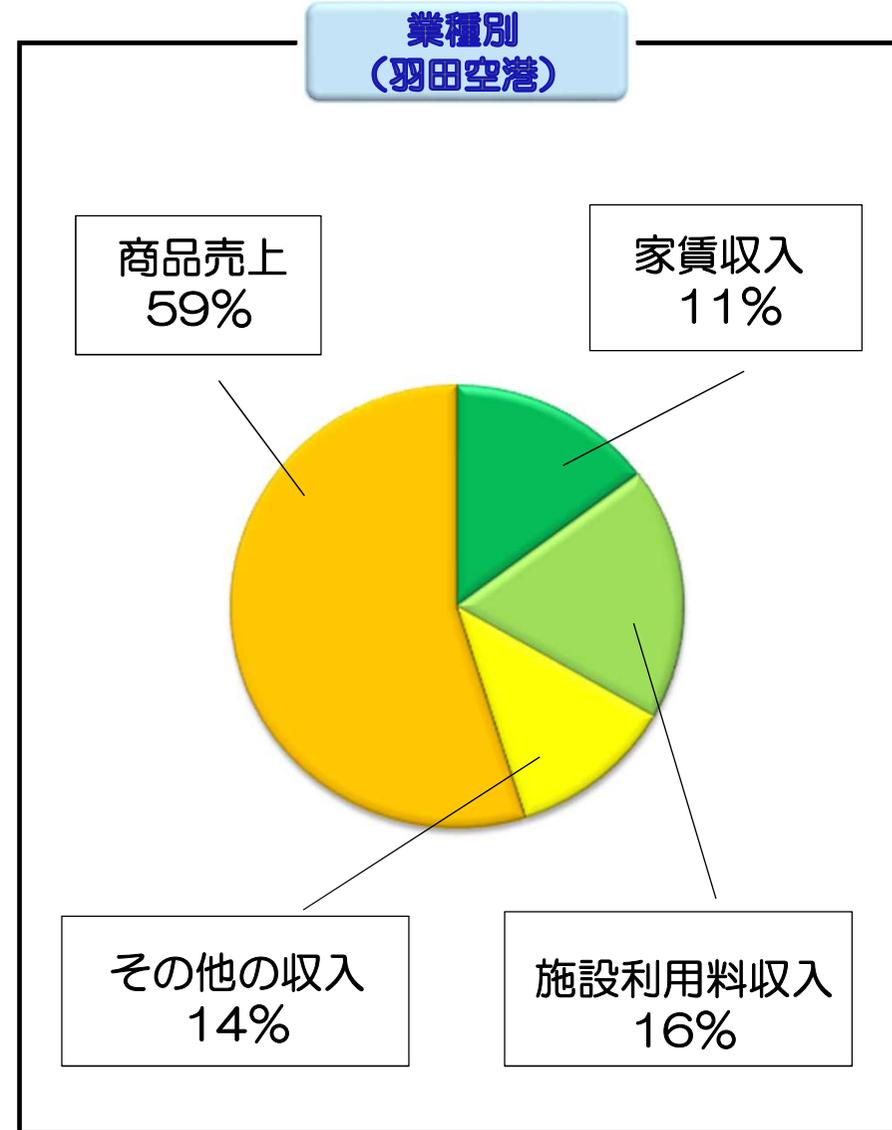
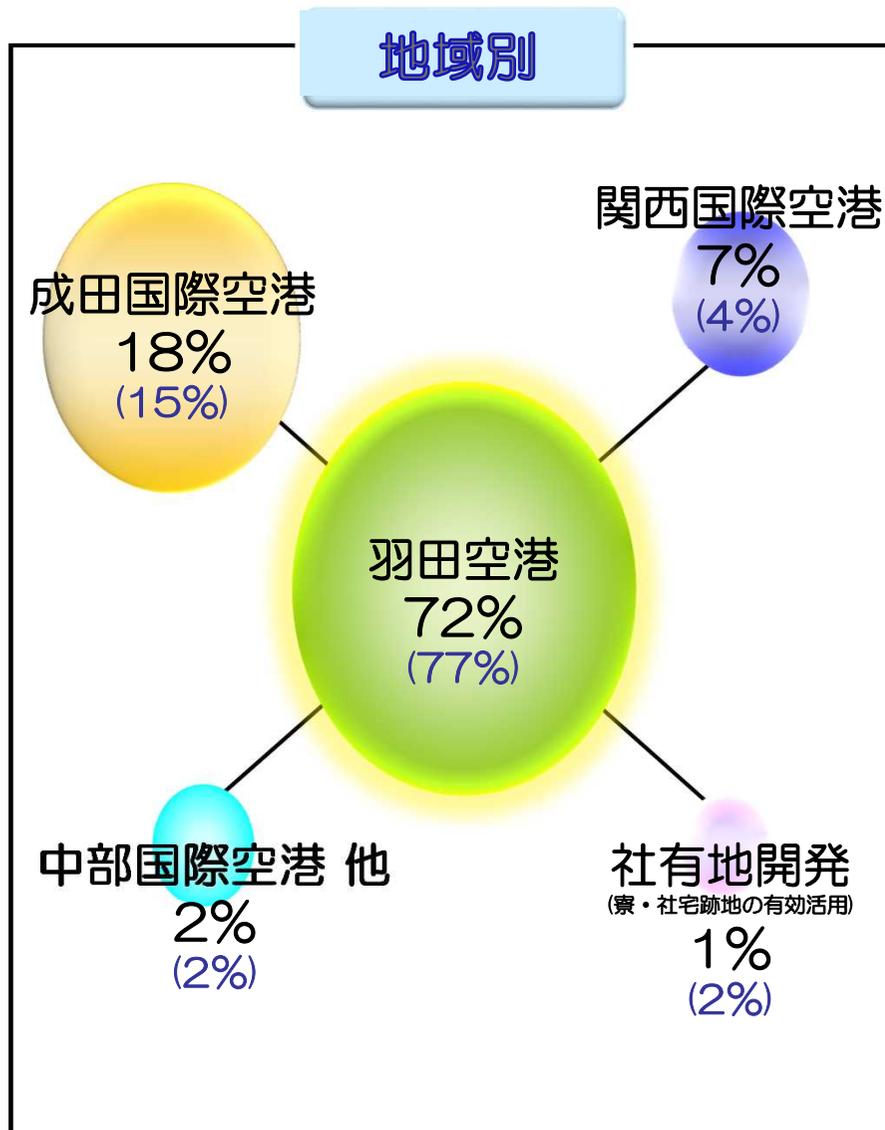
※ ( )内は 2014.9月期実績

## (6) 当社の収益構造（連結・セグメント別）

区 分		主 な 売 上 内 容	主 な 費 用 内 容
施設管理運営業	家賃収入	事務室家賃（定額家賃）、店舗家賃（定額家賃＋歩合料金）	減価償却費、水道光熱費、修繕費、賃借料(国有財産使用料等)、租税公課 清掃費、業務委託費
	施設利用料収入	旅客取扱施設利用料（国内線：PSFC）	
	その他	羽田空港における業務受託収入、駐車料収入、広告料収入、有料待合室「エアポートラウンジ」売上、請負工事収入	
物品販売業	国内線売店	羽田空港内店舗での商品売上	商品売上原価、消耗品費
	国際線売店	羽田空港等のロビー物販店の商品売上 成田空港、関西空港における空港免税店等の商品売上	商品売上原価、消耗品費、営業歩合
	その他	羽田空港、成田空港、関西空港、中部空港等への卸売上 羽田空港、成田空港、関西空港における業務受託料収入	商品売上原価、業務委託費
飲食業	飲食店舗	羽田空港、成田空港内飲食店舗売上	食材費（飲食売上原価）、営業歩合
	機内食	機内食の製造・販売	食材費（飲食売上原価）
	その他	冷凍食品、弁当等の卸売上	食材費（飲食売上原価）

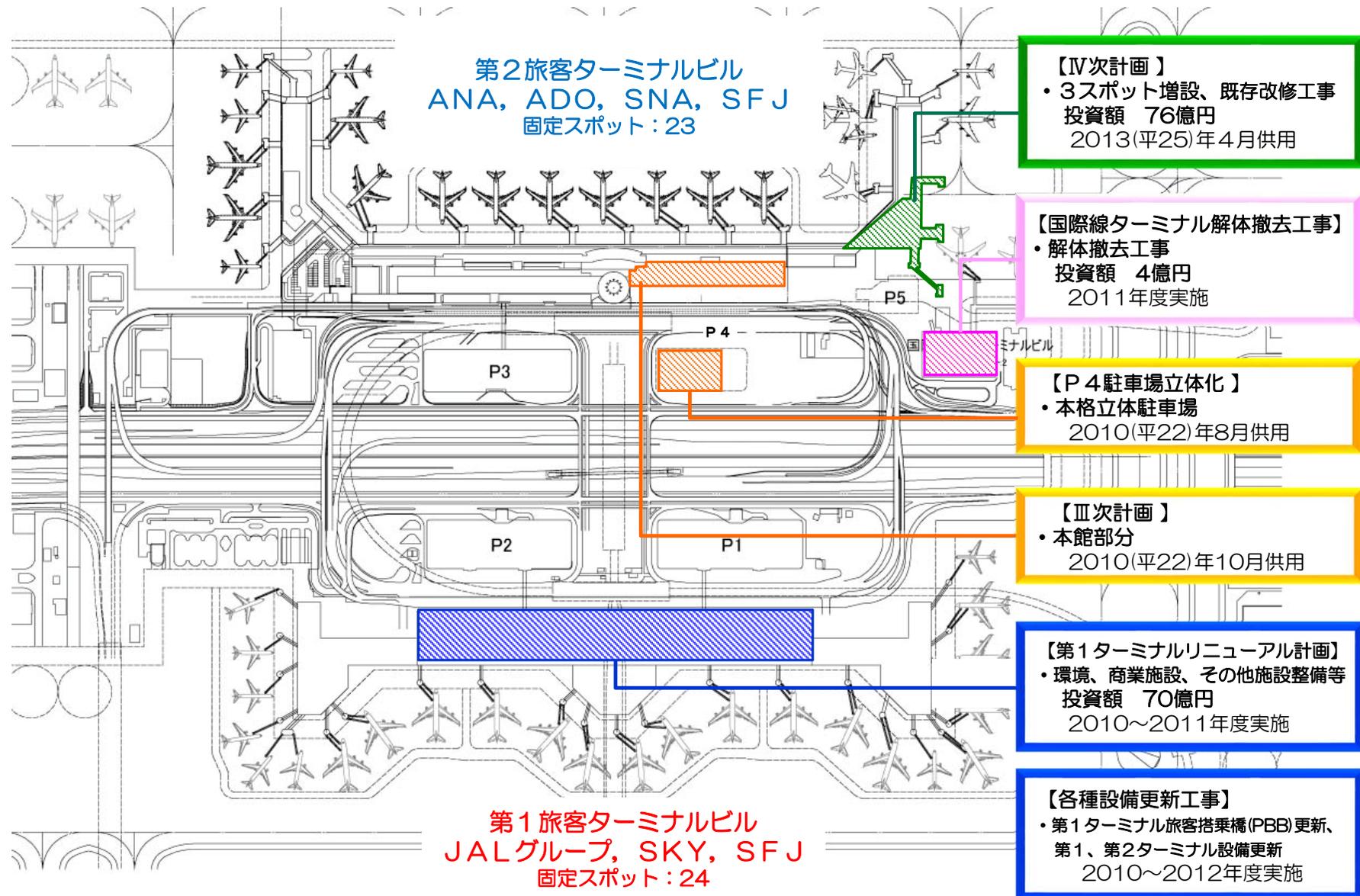
収益の変動要因・・・ 航空業界を取り巻く環境（国内線及び国際線航空旅客数の変動など）  
 国の施策等（国や行政当局の空港運営方針、国有財産使用料の改定・制度変更など）  
 旅客取扱施設利用料（国内）の変更

(7) 地域別・業種別の売上構成 (単体)



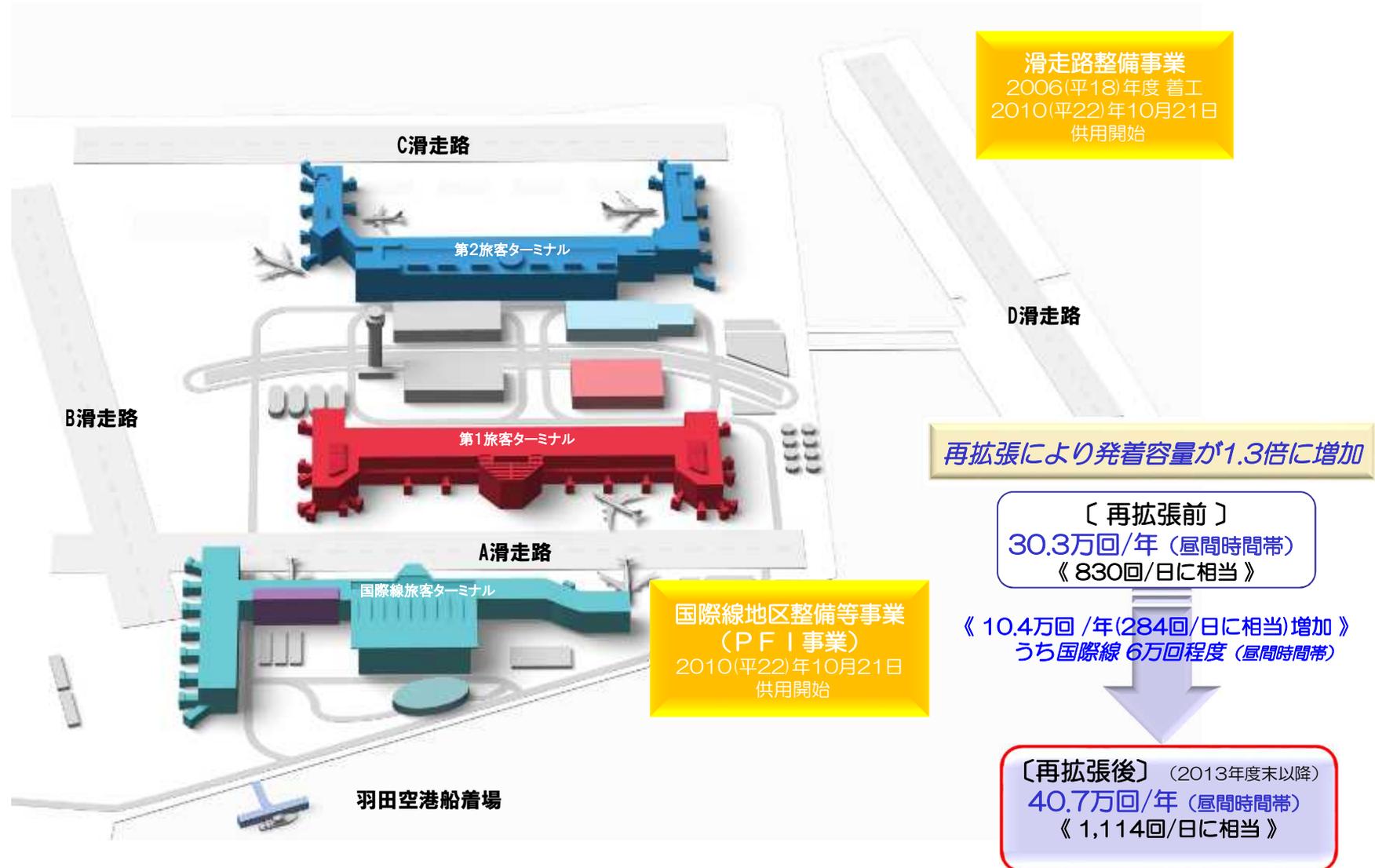
( )内は2014.9期実績

## (8) 羽田空港における施設展開 (投資計画)



## 2. 東京国際空港再拡張事業への取り組み

### (1) 東京国際空港再拡張事業



※国土交通省「羽田空港発着枠の配分基準検討懇談会09.07」及び  
国土交通省「成長戦略会議10.04」より当社作成

## (2) 東京国際空港ターミナル株式会社の設立と現状

平成18年4月21日 当社が代表企業を務める「HKTグループ」が選定事業候補者に選定される

6月1日 HKTグループが国との基本協定を締結

6月20日 特別目的会社「東京国際空港ターミナル株式会社」設立

7月7日 東京国際空港ターミナル株式会社と国との間で事業契約を締結

平成22年10月21日 供用開始

平成23年6月 東京国際空港ターミナル株式会社と国との間で、東京国際空港国際線地区旅客ターミナルビル等整備・運営事業契約の変更契約を締結

- ・旅客ターミナルビル本館部分一部改修及び増築
- ・サテライト部増築、立体駐車場増築
- ・ホテルの新設

平成24年4月 旅客ターミナルビル等増築工事の入札公告を実施

- ・旅客ターミナルビル 4工区
  - ①本館
  - ②本館、サテライト
  - ③サテライト
  - ④サテライト
- ・立体駐車場増築 1工区

平成24年7月 旅客ターミナルビル等増築工事の工事請負契約を締結

- ・旅客ターミナルビル
  - ①、②本館、サテライト：大成建設株式会社
  - ③、④サテライト：株式会社竹中工務店
- ・立体駐車場増築：大成建設株式会社

11月 増築工事着工

平成25年3月 旅客ターミナルビル等増築工事(ホテル工区)の工事請負契約を締結  
契約先：大成建設株式会社

5月 ホテル工区工事着工

平成26年3月 旅客ターミナル拡張部一部供用開始

9月 旅客ターミナル拡張部本格供用開始

1. 商号 東京国際空港ターミナル株式会社  
(英文 Tokyo International Air Terminal Corporation)
2. 設立年月日 平成18年6月20日
3. 本店所在地 東京都大田区羽田空港
4. 資本金 90億
5. 事業の内容 東京国際空港国際線地区  
旅客ターミナルビル等整備・運営事業
6. 代表者 代表取締役社長 土井 勝二  
(元 日本空港ビルデング株式会社代表取締役副社長)
7. 株主構成 日本空港ビルデング株式会社 (38.78%)  
日本航空株式会社 (19.36%)  
ANAホールディングス株式会社 (19.36%)  
成田国際空港株式会社 (4.5%)  
東京電力株式会社 (3.5%)  
セコム株式会社 (3.0%)  
東京瓦斯株式会社 (3.0%)  
京浜急行電鉄株式会社 (2.0%)  
東京モノレール株式会社 (2.0%)  
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ (1.5%)  
株式会社日本政策投資銀行 (1.0%)  
株式会社みずほコーポレート銀行 (1.0%)  
株式会社三菱東京UFJ銀行 (1.0%)
8. 基本理念 私たちは、首都東京の空の玄関として、広く世界の人人に、常に時代の先端を行くターミナル施設とサービスを提供し続けるよう努め、その実現を通し、国際航空ネットワークの発展に貢献します。

(注) 東京国際空港ターミナル株式会社 会社資料等より当社作成

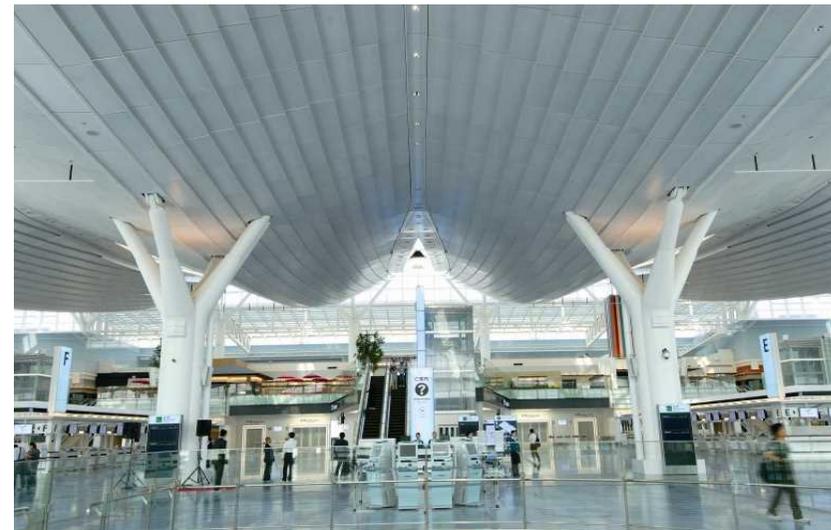
### (3) 国際線ターミナルビルの概要

#### 施設概要

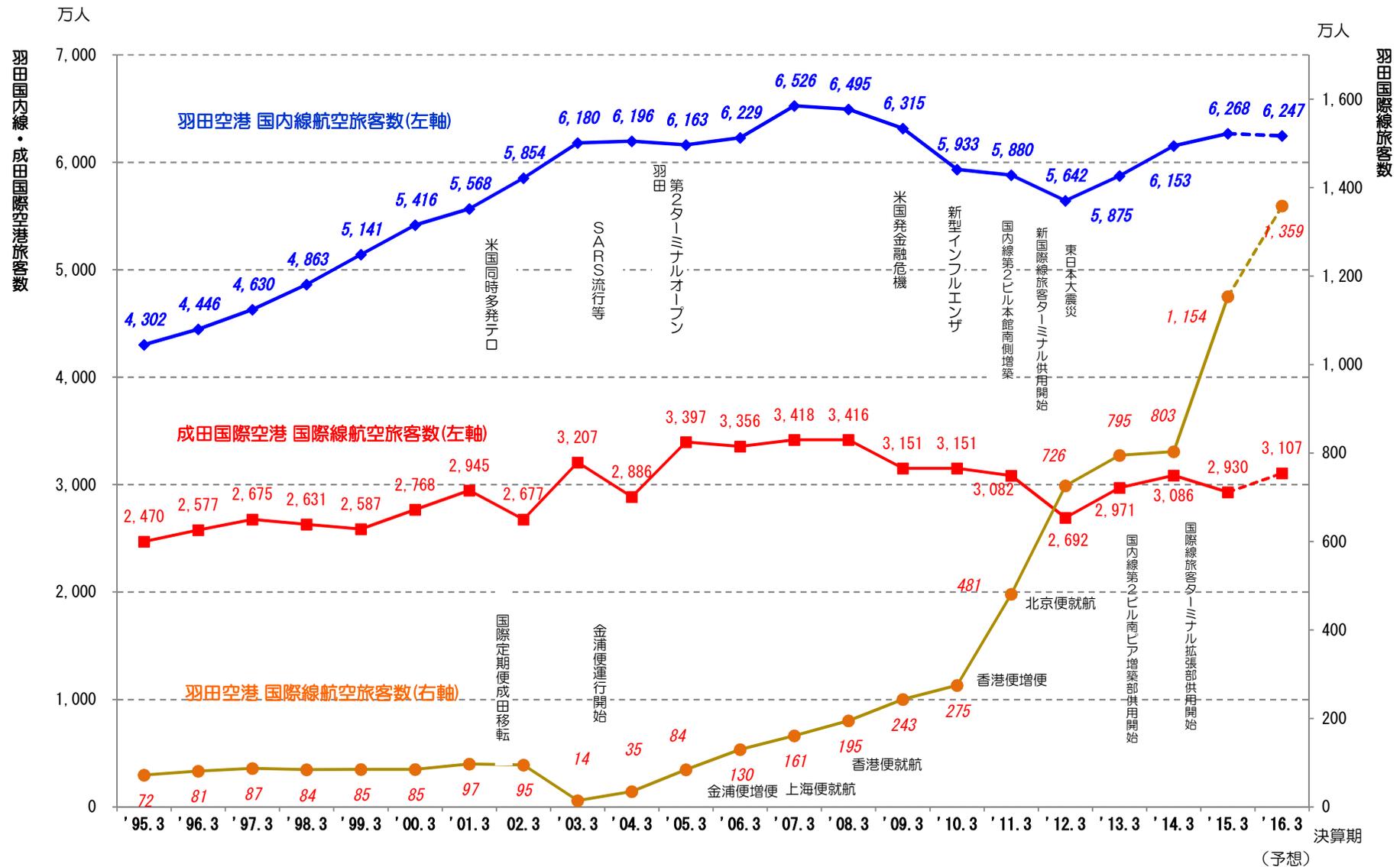
- 敷地面積 約150,000㎡
- 旅客ターミナルビル
  - 延床面積 約236,500㎡（供給処理施設棟含む）
  - 階層 5階建
  - 固定スポット数 固定18スポット
- 駐車場
  - 延床面積 約86,000㎡
  - 階層 8層9階建
  - 収容台数 約3,000台



拡張後の国際線旅客ターミナルビル等イメージパース



### 3. 国内線・国際線航空旅客数の推移（羽田・成田）



出所：国土交通省、成田国際空港(株)資料より当社作成

## 将来の見通しに関する記述についてのご注意

本資料に掲載されている、弊社の計画、目標、方針、戦略、判断、財務的予測、将来の数値・金額などのうち、歴史的事実でないものは、弊社に関わる将来の見通しに関する記述であり、弊社の経営陣が現在入手可能な情報に基づく予測、想定、認識、評価、判断、前提（仮定）等を基礎としています。これらの実現についてはさまざまな要素の潜在的リスクや不確実性を含んでいます。

なお、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

## お問い合わせ先

日本空港ビルデング株式会社 経営企画本部 広報・IR課



TEL : 03 (5757) 8030

FAX : 03 (5757) 8099

E-MAIL : ir@jat-co.com